

第2学年 特別の教科 道徳学習指導案

日 時 令和3年11月16日(火) 5校時
場 所 2年1組教室
児 童 2年1組 男17名 女11名
指導者 菊池優佳

【目指す児童像】

困っている相手のことを思いやり、親切に接することができる児童

1 主題名 思いやりのところで (B 親切, 思いやり)

2 教材名 ぐみの木と小鳥(「新・みんなの道徳2」学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) 道徳的価値について

本時のねらいとする価値は、低学年の内容項目B(6)「身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること」としている。

自分のことばかりを考えたり、自分の思いだけを主張したりしては、望ましい人間関係を構築することはできない。互いが相手に対して思いやりの心をもって接するようにすることが不可欠である。思いやりとは、相手の気持ちや立場を自分のことのように置き換えて推し量り、相手に対してよかれと思う気持ちを相手に向けることである。そのためには、相手の存在を受け入れ、相手のよさを見いだそうとする姿勢が求められる。低学年においては、幼い人や高齢者、友達など、身近にいる人々との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接することができるようにし、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにしていくことが大切である。

相手の立場を考えたり、相手の気持ちを思いやったりすることを通して、思いやりや親切な行為の意義を実感し、相手のことを親身になって考えようとする心情を育てたいと願い、本主題を設定した。

(2) 児童について

(略)

(3) 教材について

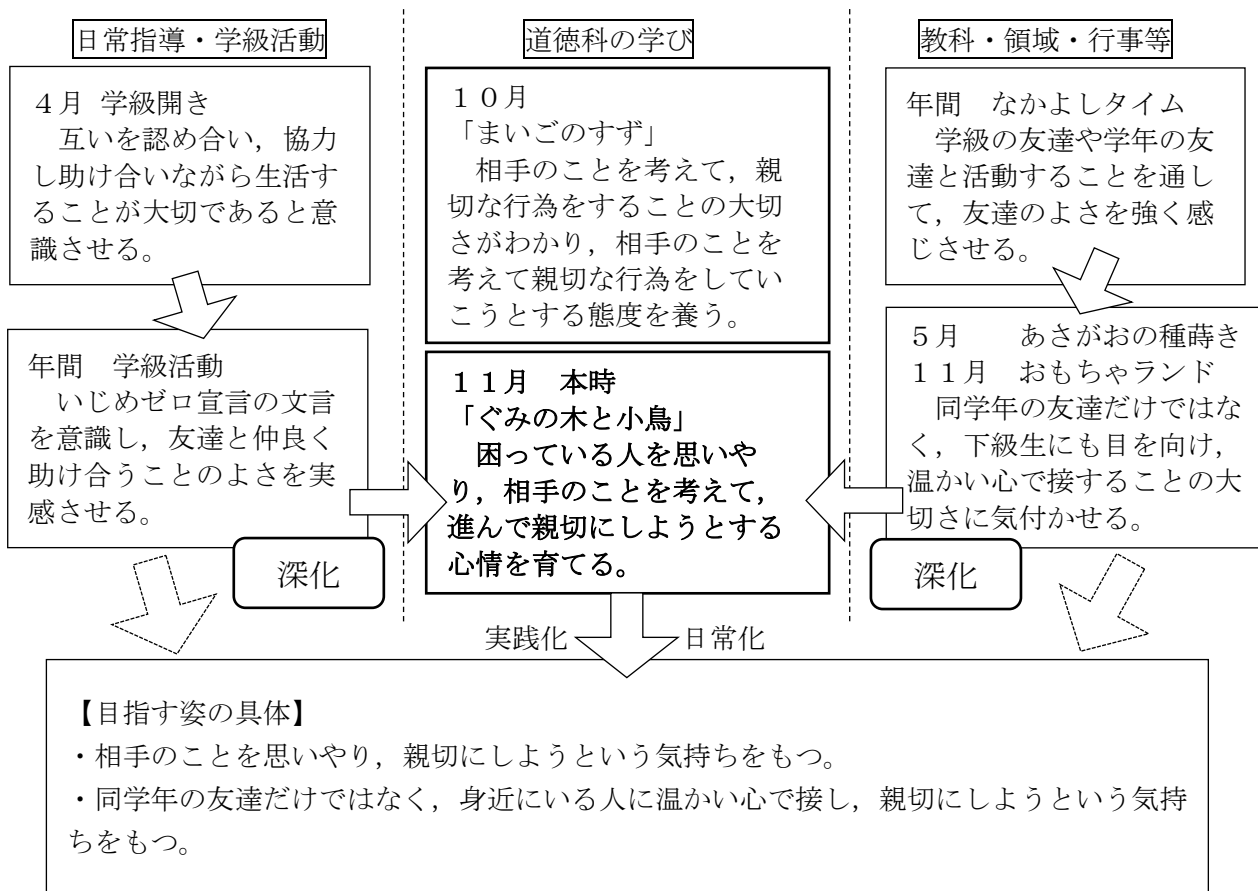
本教材は、激しい嵐を前に葛藤しながらも、りすの気持ちを推し量り、嵐の中を飛んでいく小鳥の姿を通して、ねらいに迫るものである。

温かい心で接し他者に親切にするには、自分中心の考え方ではなく、相手のことを考えて接することが大切となる。本教材を通してそのことに気付き、相手の立場を考えたり、相手の気持ちを想像したりすることで、相手にとって本当に必要な励ましや援助をしようとする心情を育てることにつなげたいと考える。

4 各教科等との関連

【目指す児童像】

困っている相手のことを思いやり、親切に接することができる児童



5 本時の指導構想

「問題の把握」の段階では、教材の感想を基に話合いの方向付けを行い、全員で問題を共有する。

「問題の分析・追及」の段階では、りすに感謝されることにより、相手への思いやりの気持ちが芽生え、もっと相手の役に立ちたいと考える小鳥の気持ちに共感できるようにする。

「価値の感得・理解」の段階では、嵐の中で実を届けることには迷いがあることについて十分に共感させた上（人間理解）で、それでもりすに実を届けた小鳥の気持ちを想像することを通して、小鳥の行動の裏にはりすを思いやる強い気持ちがあることを理解する（価値理解）。また、ハートの大きさでりすに対する小鳥の気持ちの変化を表現し、全体で共有することを通して、小鳥の気持ちを多面的に捉えることができるようにすることで他者理解を図る。

「価値の主体化」の段階では、感得した道徳的価値をもとに、これまでの自分の経験を改めて振り返り、価値に対する考えの変容を自覚させ、自己の生き方について考えを深めることができるようにする。

6 本時の指導

(1) ねらい

自分の身近にいる人に思いやりの気持ちを持ち、親切に接しようという心情を育てる。

(2) 展開

観	学習活動と主な発問	予想される反応	指導上の留意点
問題の把握	1 親切にされた経験を思い出す。 親切について考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> 親切にされると、にこにこになる。 親切にされると、笑顔になる。 嬉しい気持ちになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題に関連する話題を提示することで、学習への意欲付けをする。
問題の分析・追究	2 教材を読んで感想を発表し、話合いの方向をつかむ。 3 りすに実を届けた小鳥の思いについて話し合う。 ○ぐみの木からりすのことを聞いて、小鳥はどんなことを思ったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> あらしの中、りすに実を届けた小鳥がすごい。 行ってもいいかな。 頼まれたから、行こうかな。 自分が行ったら、りすは助かるかな。 一人で不安だろうから、自分が行こうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材中の問題を把握することで、主体的に学習できるようにする。 ぐみの木とりすは友達関係にあつて、小鳥はどちらとも初対面であることを確認する。
価値の感得・理解	4 りすに感謝されたときの小鳥の思いについて話し合う。 ○目に涙をいっぱい浮かべて「おかげでだいぶよくなりました。」と言われて、小鳥はどんなことを考えたのかな。 5 嵐の中、りすに実を届ける小鳥の考えについて話し合う。 ◎小鳥は、どんなことを考えながらりすの元へ行ったのかな。 ○初めて実を届けた時と、嵐の中で実を届けた時で、リスのところへ行きたいという気持ちは変わったのかな。 相手が嬉しいと自分も嬉しい →もっと親切	<ul style="list-style-type: none"> りすが、少しずつ元気になってよかったな。 また明日も、実を届けよう。 こんなに感謝されるとは思っていなかった。 これからも、自分がりすを助けなければ。 りすが困っているだろうから、届けに行かなきゃ。 自分がいかなければりすを助けられないから今行くよ。 困っているりすをそのままにできないよ。 自分のことを頼りにしてくれているりすのために、自分がやるしかないな。 嵐の方がりすの気持ちは大きいと思う。感謝されることで、前よりもりすを助けたいという気持ちが大きくなったと思うから。 	<ul style="list-style-type: none"> 次の日に実を届ける約束はしておらず、小鳥が進んで実を届けたことを確かめる。 親切にされた、りすの気持ちも問うことで、互いの気持ちが近くなっていることを押さえる。 嵐の中だと届けに行くのが大変であり、迷いが生まれていることを確認することで、人間理解を図る。 タブレットに自分の考えを反映させ共有することで、多面的に捉えられるようにする。
価値の主体化	6 学習を振り返り、大切だと思ったことを話し合う。 相手に親切にして喜ぶ姿を見て、嬉しくなった経験を振り返ってみましょう。 7 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 消しゴムを拾ってくれて嬉しかったと思ったことがありました。 小鳥と同じように「ありがとう。」と言われて、また親切にしたいなと思ったことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを自分との関わりで振り返らせる。

(3) 評価

相手に思いやりの気持ちをもって親切に接することの大切さについて考えを深めることができたか。(ワークシートへの記入)